

プラット エッセ

vol. 3



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

演出家にきく

出演俳優をはじめ、舞台
装置、照明、衣装等々の

スタッフを統合して一つの世界を創りだす演出家。でも、私たちは、公演のステージ上では滅多にその姿を見ることがありませんし、また、少なくとも演劇を観ている間はその存在を意識する人も少ないでしょう。そこで今回は、今年の夏以降にPLATで上演される演目の演出家4人にインタビュー。彼らの表現への思いに迫ってみました。

鶴山 仁

10月主ホール公演

『ジャンヌ』

聞き手 | 芸術文化プロデューサー 中島晴美

演劇は、個人のスパンを超えて生き続ける

「ひとのために死ぬ」という
人生の明るさ

— 『ジャンヌ』の主人公ジャンヌ・ダルクは、百年戦争（1337—1453）という歴史のなかで火刑台に消えた実在の少女です。作者のバーナード・ショーはといえば、ノーベル賞作家として知られていますが、一方で社会運動にも深く関わって来ます。

鶴山●僕自身が「公共」の枠組で『ジャンヌ』に携わるうちに、ショーの社会運動と表現活動がどこでどう結びついていたのか、見えてくる予感がありますね。ジャンヌ本人が本当のところ何を考えていたのかはわからないにしても、記録や証言がたくさん残っている。それはつまり、彼女によって世の中が動いたということでしょう。

あの、いい死に方をしたと思うんですよ。ジャンヌって。芝居でいくつもの死に出会ってきたせいかもしれませんが、死ぬ瞬間も、いや、死んだ後も人生だっていう感じが自分のなかにある。人のために死ぬ、世の中のために死ぬ、そこに思い切った人生をかけるのは、すごく明るい生き方というか、それを見た人の感動や記憶はずっと残っていく。そうすると、たとえば今80年スパンで考える「いいこと」が、800年スパンでは「悪いこと」だとか、その逆だとかということが見えてくる。



撮影:谷古正彦

— ショーが『ジャンヌ』を書いたときも、ジャンヌの死後500年以上たっています。

鶴山●だから、そういう価値観を問い直す戯曲が、古典として残ってきたんじゃないか。今はみんな、「自分」という個人

のスパンを超えて生き残っていくものを求めている時代なんじゃないかなと感じています。

舞台は「誤解」が命を与える

— そういう演劇に出会ったそもそもの最初はどこにあるんですか。

鶴山●僕は、中学・高校は奈良女子大学付属の一貫校で、中学の文化祭で高校3年の人たちが大人の芝居をやっていたのが、始まりかな。僕自身も、高校に行ってからピランデルロの『ヘンリー四世』、安倍公房の『友達』なんかを演出・主演していました。それで、「東京行って芝居やるのもいいなあ」って思った。

もっとも大学時代は観るだけで、再び創る側になったのは卒業後です。22、3歳の頃、文学座の『飢餓海峡』を観たら、味わい深い大人がたくさん出ていて、いろんなヒストリーを持った声が聞こえてくる、なのに一体感があって、「あ、ここに演出があるんだな」って。

— その文学座に所属されてもう、30年です。今、文学座以外の演出をしていて感じることはありますか。

鶴山●大きいのは、いろんな人に出会えること。だから、文学座語というか、共通の言葉が通じない。すると、いろんな誤解が生じるんです。演出家ってほしいと思うんですけど、役者に誤解してもらわないと困るんですよ。お客さんは、珍しい声、音を聴きにきている。「珍しい」っていうのは、感動だったり、ある驚きだったり、そのときにしか出ない声と言えいいかな。たとえば『ジャンヌ』の笹本さんなら笹本さんの、お客さんがすでに知っているものではない声。相手方が引き出してくれる声、お客さんが引き出してくれる声、本人もびっくりするような声。それは、演出家の言う通りに、自分の頭のなかだけで組み立てたら、生まれません。一つひとつの台詞や何かジグソーパズルみたいにピタッとはまったら、きれいかもしれないけ



どガチガチで、面白くない。

— でも、演出家としては、野球にたとえれば2アウト満塁のところ、バッターに「ここでやってくれ」というようなこともあるのでは？

鶴山●ありますけど、そのとき大事なのはバッターだけじゃなく、走者や守備など、周りにいる人たちの空気を創ること。彼らに、「ここでちょっとピッチャー牽制してリードしてみようか」と問題を投げかけることで、ヒットが出るんですよ。

ヒロインはどう生まれるか

— ショーの『ジャンヌ』は、冒頭、料理人との卵をめぐる会話から始まります。「聖女か、異端の魔女か」といわれるジャンヌのこのシーンは、どういう意味を持つのでしょうか。

鶴山●ヒーローもヒロインも、顔も洗え

ば猫とお喋りもする普通の生活をしているんです。突然変異みたいなことが起きるときって、そういう日常のなかで、「あの子、ちょっと考え方が変わっているよね」っていうようなところがきっかけになっていたりして、普通の人とどこが違うのかといたら、実は、すごく細かいところだと思うんです。ヒロイックなストーリーばかり追いかけていると、その人がなぜ、ヒーロー、ヒロインになるのかというダイナミクスは見逃してしまう。ジャンヌのどこが私たちと共通で、どこが違うのかっていうことを見つけてもらえれば、感じてもらえれば嬉しいですね。

〔うやま・ひとし〕 文学座所属、元新国立劇場芸術監督。日本演劇界を代表する演出家の一人として活躍を続ける。『コペンハーゲン』（01年、新国立劇場）で紀伊国屋演劇賞など受賞の他、『ニュルンベルク裁判』（03年、ひょうご舞台芸術）などで読売演劇大賞の大賞、『ヘンリー六世』（09年、新国立劇場）では同賞の最優秀演出家賞を受賞。他に『父と暮せば』『紙屋町さくらホテル』（以上こまつ座）など代表作多数。

プレトーク
開催決定！

鶴山 仁・村井國夫・伊礼彼方 「ジャンヌをめぐる男たち」

- 日時=8月18日〔日〕18:00～ ●会場=PLAT
- 出演=鶴山 仁〔演出家〕/村井國夫・伊礼彼方〔俳優〕
- 対象=『ジャンヌ』豊橋公演チケットご購入者のみ。先着100名様
- 参加料=無料 ●申込=プラトチケットセンターまでお問い合わせください。

チケット発売中

世田谷パブリックシアタープロデュース

『ジャンヌ』

— ノーベル賞作家が暴く

聖女ジャンヌ・ダルクの真実 —

作=バーナード・ショー『聖女ジョウン』（原題）

翻訳=中川龍一/小田島雄志

演出=鶴山 仁

出演=笹本玲奈/今井朋彦/伊礼彼方/村井國夫 他

●日時=10月5日〔土〕14:00開演 ●会場=PLAT主ホール

●料金=[全席指定] S席6,500円/1Fバルコニー席5,500円/A席4,000円



制作発表の様子

永井 愛

9月主ホール公演
『兄帰る』

私たちは、何を基準にものごとを 決めているんだろう？

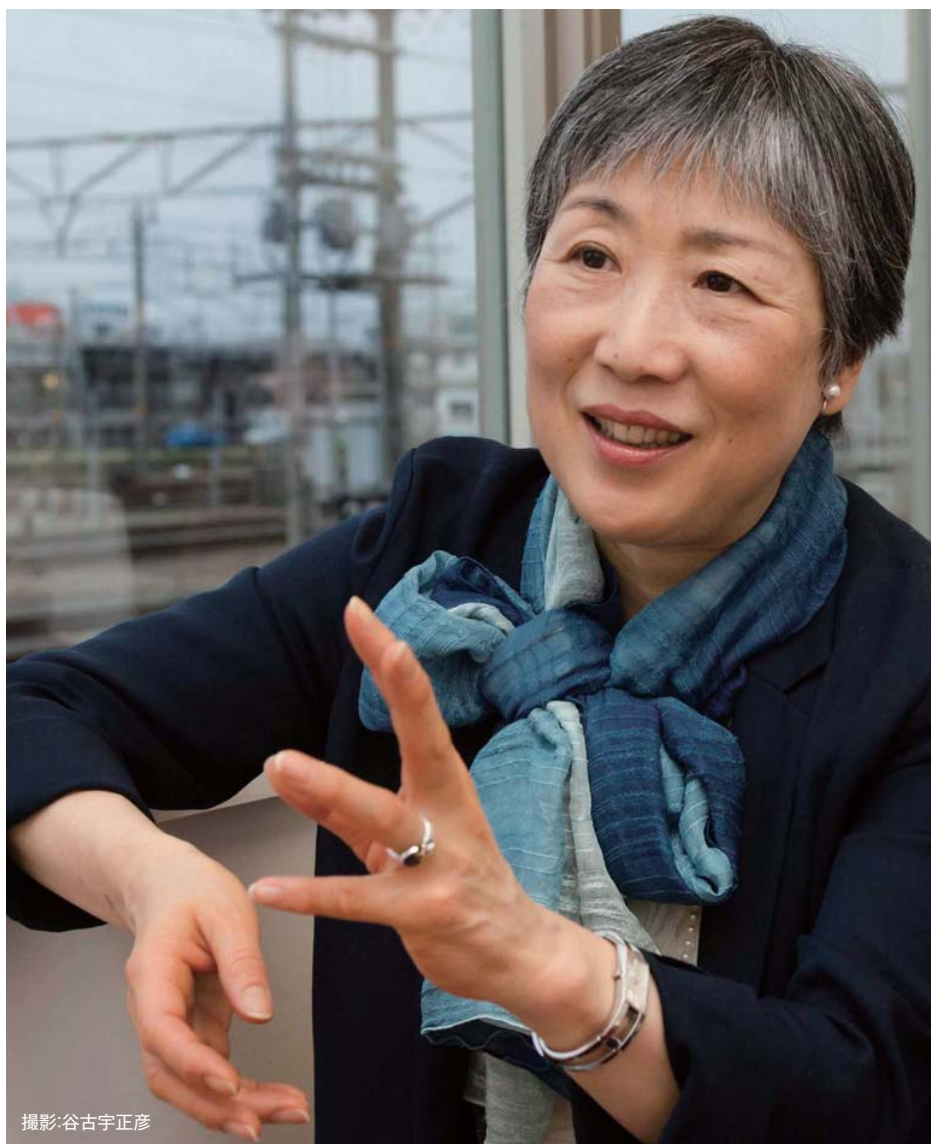
9月公演『兄帰る』作・演出 永井 愛 × 芸術文化プロデューサー 中島晴美

「愛ちゃんの芝居って 『いい人』しか出てこないよね」

中島●今回上演する『兄帰る』は、1999年初演の作品です。岸田國士戯曲賞を受賞しながら、再演は今回が初めてなんです。なぜ、今、だったのかしら。
永井●なんでなのか、自分でもよくわからないんですよ。もちろん、いつか再演したいとは思っていたんですが、急にやりたくなったのね。

中島●昨年、『こんばんは、父さん』上演の際にインタビューさせていただいたときに、2011年の震災後の政府やメディアの姿に触れて、「放射能とともに見えたこの国の不確かさが、明日とか来年といった未来があるかどうかを疑わせた」と話しています。一方、本になった『兄帰る』の「あとがき」で、「愛ちゃんの芝居っていい人ばかりしか出てこないよね」と言われたことに対して、「長い物には巻かれる、触らぬ神に祟りなし、出る杭は打たれる、世間体を考えろ、義理を欠くな—こういった処世訓を本音としながら、建前では民主的なことも言える人は、かなり物のわかった『いい人』だ」と書いている。このあたりに、なにか通じるところがある気がします。

永井●ああ、ありますね。『兄帰る』を書いたときは、「20世紀は戦争の世紀だったが、21世紀は平和の世紀になる」



撮影:谷古字正彦

なんていうことが言われていた。実際には、平和とはほど遠いものになっていますが、それはともかく、あのときは、もう

新しい時代が来ているのに、私たち日本人は相変わらず、何をすべきなのか、何がよりいいことなのかという話し合い

がないままに、物事が根回しや力関係で決まってしまう。それを、家庭を単位に描いてみたいと思ったんです。

ところが、原発事故からしばらくたつと、タクシーに乗っても美容院に行っても、「原発はいらないよね」って話しかけられるようになった。去年の夏頃のパブリックコメントでも「原発ゼロ」が80%以上もあって、ああ、さすがにここまで来て、私たちはちゃんと考えて、はっきり答を出したんだと思った。それが今年に入ったら途端に、「ゼロ」は20%ぐらいとかね。いつから、どうやって20%になっちゃったんだか、私、知らないのよ。結局、今度も、これは良かったのか悪かったのかって自分で検証する機会も失って、「物わりのいい人」になっちゃう。なにか、「自分」というものの輪郭すら失っていくんじゃないかっていう気がするんです。

家庭内のバカバカしい出来事から見えるもの

永井●だから今、私たちは何を基準に物事を決めているのかっていうことを、再び問いたいですよ。といっても、私だって普段、まったくそのように生きているわけだし、芝居を観に行くときだって、別に何か教えていただくとか、なんて思わない。期待しているのはやっぱり意外性で、そこは楽しんでいただければと思うんですけど。

中島●日常のなかでは、大きい問題は自分一人の力じゃ解決できなくて、どうしても長いものに巻かれがちだけど、家庭内のことを問題にすると、逆に大局を見る余裕ができてきますよね。そこで、「私だけの問題じゃないんだ」とか、共感を抱いていただければね。

永井●ええ。自分が日常ではこっち側から見ているものを芝居を通して反対側から見てみる、そうしたら、見えないものが見えたとか。私ね、家庭内の、本当にバカバカしい出来事を通して、もうちょっと大きなものを見つめたいなってい

うのは、いつもあるんです。そのためには、間違っていたりひねくれていたりしても、登場人物一人ひとりの価値観みたいなのは全部に通ってなくちゃいけないですね。

中島●それがないと、役者は動けない。人間って、過去・現在・未来が万華鏡のように入り乱れているというか、実際の生活ではそうなんだけど、戯曲を書く、演出するという場合には、どこか、なにか1本、ピンが通っているんでしょね。そうすると、「どういう意味をもって、この台詞を喋ったの?」というような問いを、役者自身が自らに発することになるんですね。

コトが起きて明らかになる関係性の真実

中島●ところで、『兄帰る』の「兄」というのは、登場する夫婦の、夫か妻か、どちらから見た「兄」になるのかしら。

永井●やっぱり、兄が帰って一番被害を受けるのは弟の妻だから、真弓の側になるわね。彼女は、「私はライターです」って、一応は言える仕事をしていて、生活もエコで、センスが良くて、夫婦平等でよく話し合ってるらしていると思ってきた。そこへ「兄」が帰ってきたら、夫は親戚の言い分に左右されて、こっちにこういう顔したと思ったら、あっちにはああいう顔したりして、単にその場しのぎの行動をとるだけの人なんだってわかってくる。今まで信じていて気が合っているとっていた夫と、実は、このぐら

い違うんだということが見えてしまうんですね。私が彼女に託したのはそこで、夫婦でも友だちでも、普段は楽しくやっていたらいいけれど、何かことが起きたときに、「こんなに違っていたのね」と、身体で感じる。それは、大きくも小さくも、震災のときに感じたことに通じるものがあると思うんですよ。

中島●キャストも、魅力的な「ワル」の兄に鶴見辰吾さん、正義感に燃える妻に草刈民代さん、「なんでもあり」の夫に堀部圭亮さんと、それぞれにハマリ役です。初演は東京公演だけの上に短期間だったこともあって、「知る人ぞ知る」の『兄帰る』、楽しみにしています。

【ながいあい】 劇作家・演出家。二兎社主宰。「言葉」や「習慣」など、身辺や意識下に潜む問題をすくい上げ、現実の生活に直結したライブ感覚あふれる劇作を続けている。日本の演劇界を代表する劇作家の一人として海外でも注目を集め、『片づけたい女たち』『こんにちば、母さん』など多くの作品が、翻訳・リレーディング上演されている。紀伊國屋演劇賞個人賞、鶴屋南北戯曲賞、岸田國士戯曲賞、読売文学賞、朝日舞台芸術賞松元松代賞などを受賞。



二兎社『兄帰る』

作・演出＝永井愛 出演＝鶴見辰吾／草刈民代／堀部圭亮 他

チケット発売中

残り僅か

中村 保・真弓夫妻は、センスの輝く一戸建てに住み、夫婦・親子をはじめ、親戚との関係も良好で、物心両面で満足度の高い生活を送っていました。そんな夫妻の前に、長年の断絶を経て突然現れた問題児の兄・幸介。この「想定外の出来事」をきっかけに、長年フタをされてきた嘘や秘密が露わになり、中村家の「安心」と「信頼」が揺らぎ始めます。

- 日時＝9月7日[土] 13:00開演
- 会場＝PLAT主ホール
- 料金＝[全席指定] S席5,500円
1Fバルコニー席4,500円
A席4,000円

※終演の約15分後からアフタートークを行います。
出演：永井愛 他

柴 幸男

8月アートスペース公演
ままごと『日本の大人』

出来のいい短編小説のように。

場所があって人がいれば、
行きたくなる。

— 東京ではなく、地方で公演を行うことが多いですが。

柴●東京と決めつける理由がないというのがありますね。なぜ豊橋か？ と理由を考えなきゃいけないならば、同じくらいなぜ東京なのかも考えなきゃいけないと思います。逆に考えてないから、劇場がそこにあればどこでも行きたい気持ちが出てきて、最近は劇場に限らず、場所があって人が集まっていれば、行きたくなります。

— 劇場が変われば、観客も変わります。作品にも変化はありますか？

柴●変わらざるをえないというのはあります。日本人だから皆同じ空気かといえば、そんなことはない。同じ愛知県でも名古屋と豊橋では、やっぱり違うんです。街を歩いていると勝手に知識が積みあがっていく。それは自ずと作品に影響してきます。『日本の大人』の“日本”もそうで、他の国の大人と比べてみて特有の考え方や、態度の出し方、処理の仕方とか、その部分ぐらいまで狭めて大人と子どもについて考えたい。「日本の」と狭める分、深いとは言わないですが、ポイントを絞って考えられるから、出てくるものも違うかなと思って“日本”とあえてつけました。

劇作家と演出家のせめぎ合い。

— “子どもに見てもらいたい作品”ということですが、工夫していることはありますか？
柴●出来のいい短編小説のような演劇にしたいと思ってて、つまり、言い過ぎない、スツと残るような作品です。台本的になると、どうしても僕が見せたい方向や、言いたいことを言わせていく流れになってしまうので、今は空気を大事にしようと考えています。エンターテインメント的な考え方というか、あるいは、ものすごく見せたいものを、一方的に子どもにぶつけるんじゃなくて、楽しみながら一緒に空気を作っていく。でも、飽きてついてこなかったら意味がない



ので、60分間ずっと楽しめる流れ、空気、見せ方は用意したいと思いますね。

— 劇作家の柴さんと、演出家の柴さんがせめぎ合っている感じがしますね。

柴●見せ方などを気にしている時は演出家が頑張っているのですが、今回はどちらかというと劇作家よりの作品にしたいですね。でも、台本をパーツと書いてきたのをやると、演出家の僕が「これはNOだな」と、NOというか、「難しい、このままやっても、たぶん子どもにウケない」って言うので、戻してまた書いてという作業がすごく大事だと思います。小学校のクラスに26年生のおじさんが転校してくる話なんですけど、大人が小学生をやっているの、みんな一緒なんです。2メートルの巨人が出てきたら「うわー、大人だ」ってなるんですけど、見た目一緒なので、それを成立させるのにま

ず演出家として苦労しますね。

— 「おじさん」と柴さんは歳が近いですね。

柴●「おじさん」は夏休みが一生続けばいいなって発想の人なんです。僕自身もそういう感じで、いかに吟遊詩人的な時間を引き延ばせるかみたいな人生を送ってきてるので、それはやっぱり、大人にならないといけないんだけど、ならないといけないう考え方自体どうなのかなって、でも、「おじさん」みたいな状態は羨ましいとは思いますが、それで本当にいいのかって、僕自身が葛藤しているんですよ。

[聞き手＝事業制作グループ]

[しば・ゆきお] 1982年生まれ、愛知県出身。「青年団」演出部所属。日本大学芸術学部在学中に『ドミノ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010年に『わが星』で第54回岸田國士戯曲賞を受賞。『わが星』全国6都市ツアーや岐阜県可児市での市民劇の演出、あいちトリエンナーレ2010の参加など、全国各地にて精力的に活動中。

あいちトリエンナーレ2013

ままごと『日本の大人』

チケット発売中

作・演出＝柴 幸男 出演＝秋葉由麻／大石将弘／高田博臣／高野由紀子

●日時＝8月17日[土] 19:00開演／18日[日] 11:00開演・15:00開演

●会場＝PLATアートスペース ●料金＝大人3,000円／子ども[4歳以上小学生以下]500円 ※3歳以下入場不可

田尾下哲

物語を物語るために必要なこと。

作品の理解を皆で共有する。 演出家の大きな幸せ。

——演出に際して一番大切にすることは何でしょうか。

田尾下●一番考えるのは物語を物語る、これに尽きますね。たとえば、6月に上演した朗読劇『ガラスの動物園』なら、1930年代、40年代のアメリカ南部の歴史も、それからテネシー・ウィリアムズという作者も、私たちにはやっぱり遠い。だから、言葉をすごく大事にして、なんでこう言うのか、こういう価値観にはどういう背景があるのかを掴むために、とにかくしっかり勉強する。私だけではありません。私も俳優も装置家も音楽家も、関わる人の全員がその作品への理解を共有して、物語るために何が必要なかを話し合う。常に、そこから始めています。だから、『ガラスの動物園』の翻訳も僕の名前だけが出ていますが、実際には俳優さんから指摘していただいたものがいっぱいあります。僕は下訳で、やっぱり俳優が言いやすい言いにくいということから、物語る言葉になっていく。台詞を話すと、ただ発音するのは違いますが。

——『ガラスの動物園』では、音楽がとても雄弁だという印象を受けました。

田尾下●『ガラスの動物園』もあいちトリエンナーレで上演予定の『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』も、作曲家の茂野雅道さんに書き下ろしで作曲をお願いしています。彼は、脚本を本当に精読してイメージを膨らませてくださるんですよ。音楽稽古のときも、ご自分で脚本を読まれて台詞を言う。すごくいい意味で共同作業ができるんです。私が「ここからここまで音楽を入れてください」とガッチリ決めないで、コンセプトとか

稽古を全部聞いて見て共有して、音楽をつけてもらえるのは、演出家としてすごく幸せなことだと思います。

音楽には力がある。 そこからすべてが始まる。

——言葉も音楽も大切にしていってらっしゃる。それが、オペラやミュージカルの作品を手がける理由でしょうか。

田尾下●私は、もともとは医者志望だったんですよ。でも、医学部に受かることが出来ませんでした。一方で、音楽も大好きで、本当に恥ずかしげもなく言うと、医者以外に命や愛の大切さを伝えられる仕事は何だろ

12月主ホール公演 『劇場へ行こう!』

う? と考えて、オペラの演出に行きついたので。だから、単に刺激的なものを作るというのでは終わりにたくない。直接魂に触れるというか、そういう音楽が持つ力がまず、原点にあった上で、言葉が紡がれて、空間や装置の配置があって、ドラマが生まれていく。『ガラスの動物園』では、作品を読み込むために最初の20時間ぐらいはみんなて勉強したんですが、この大名作に取り組んだことを、自分のオリジナルの劇作に活かしていければと思っています。

——それはきっと、市民参加のワークショップを経たPLATの『劇場へ行こう!』にも表れますね。今から楽しみです。

[聞き手=芸術文化プロデューサー 中島晴美]



[たおした・てつ] ミハエル・ハンベトの出会いを機に本格的にオペラ演出を学び、2000年から演出家として活動。09年、第20回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2012年の演出に、ホリプロ《ボニー&クライト》、東宝《ソングス・フォー・ア・ニュー・ワールド》、二期会《カヴァーパリ》、一柳慧《ハーメルンの笛吹き男》、フジTV《プロミセス、プロミセス》などがある。今後はNew Play Development Workshopを立ち上げ、テネシー・ウィリアムズ《ガラスの動物園》を訳・演出し、あいちトリエンナーレ2013《蝶々夫人》、その他のミュージカル演出、劇作家としての活動が控えている。

宮川彬良PRESENTS 『劇場へ行こう!』

音楽監督・作曲・指揮=宮川彬良 演出=田尾下哲 出演=公募合唱団

●日時=12月21日[土] 14:00開演 ●会場=PLAT主ホール

●料金=[全席指定]一般4,000円

●チケット発売=会員先行 9月29日[日] / 一般発売 10月6日[日]

8/17 SAT — 18 SUN

好評発売中

あいちトリエンナーレ2013

ままと『日本の大人』

- 作・演出=柴 幸男
- 出演=秋葉由麻/大石将弘/高田博臣/高野由紀子
- 日時=8月17日[土] 19:00開演/18日[日] 11:00開演・15:00開演
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=大人3,000円/子ども[4歳以上小学生以下]500円 ※3歳以下入場不可

8/23 FRI — 25 SUN

あいちトリエンナーレ2013

現代アート展

『モバイル・トリエンナーレ』

PICK UP!

- 参加作家=青木野枝/青野文昭/池田剛介/岡本信治郎
オノ・ヨーコ/國府 理/竹田尚史/丹羽良徳
彦坂尚嘉/藤森照信/ヤノベケンジ/山下拓也
横山裕一/渡辺 豪
- 日時=8月23日[金]—25日[日]
- 会場=PLATアートスペース 他 ● 料金=入場無料



青木野枝

あいちトリエンナーレ2013では、主会場の名古屋と岡崎市のほか、豊橋市、知多市、春日井市、東栄町の県内4カ所を会場に、『モバイル・トリエンナーレ』を開催します。

参加アーティスト14名の、本展出品作とは異なる作品を巡回展示し、あいちトリエンナーレのエッセンスを紹介します。それぞれの地域に根差した身近な場所で出会う現代アートは、きっと想像するより親しみやすく、また、心の奥に眠っていた何かを引き出してくれるはず。真夏の週末、気軽に自由に、現代アートを感じてみませんか。

速報!

**モバイル・トリエンナーレ
ワークショップ**

期間中の8月24日[土]、モバイル・トリエンナーレ参加アーティスト山下拓也氏による『かぶると頭がグリーンと回る君だけ!の面』ワークショップ開催が決まりました! 申込は不要です。13時~17時の間に会場へお越しただければ、どなたでもご参加いただけます。

9/7 SAT

好評発売中

残り僅か

二兎社『兄帰る』

- 作・演出=永井 愛
- 出演=鶴見辰吾/草刈民代/堀部圭亮 他
- 日時=9月7日[土] 13:00開演 ● 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定] S席5,500円
1Fバルコニー席4,500円/A席4,000円

9/14 SAT — 16 MON

前売予定枚数終了!
※当日券につきましては、お問合せ下さい。

KAAT神奈川芸術劇場プロデュース
親子のためのファミリー・ミュージカル

『ピノキオ~または白雪姫の悲劇~』

- 原作=カルロ・コローディ ● 演出・脚色=宮本亜門
- 作曲・音楽監督=深沢桂子 ● 共同演出・振付=福島桂子
- 日時=9月14日[土] 15:00開演/15日[日] 11:00開演・15:00開演
16日[月・祝] 11:00開演
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=大人3,000円/子ども[4歳以上小学生以下]500円 ※3歳以下入場不可

速報!

関連企画 **美術ワークショップ**

『なりきり変身ワークショップ!』

『ピノキオ~または白雪姫の悲劇~』の美術を担当した下田昌克さん、大島広子さんによる美術ワークショップを9月14日[土]に開催します。
※申込方法等、詳細は追ってHPやチラシなどでお知らせいたします。

9/28 SAT — 29 SUN

好評発売中

**平山素子ダンスワークショップ
ショーイング**

- 構成・演出=平山素子 ● ゲスト出演=大嶋正樹/竹内 梓
- 出演=WS参加者より選抜された12名/平山素子
- 日時=9月28日[土] 18:00開演/29日[日] 14:00開演・17:00開演
※9月28日[土] 18:00/29日[日] 14:00終演後平山素子ほかによるポストトークあり
- 会場=PLATアートスペース ● 料金=一般2,000円



本番へ向けてワークショップも始まる。

チケットの購入・お問合せは

プラットチケットセンター [会員先行・一般発売]

- Web = <http://toyohashi-at.jp>
ホームページから24時間いつでも予約可能です。
※プラットフレンズへの登録が必要です。
- Tel = 0532(39)3090
- 窓口 = 穂の国とよはし芸術劇場 1F
Tickets & Informationカウンター
受付時間 [Tel・窓口] 10:00~19:00 (休館日をのぞく)

U24・高校生以下 割引のご案内

若い人にこそ生の舞台を楽しんでもらいたいから、ほぼすべての豊橋文化振興財団主催公演に割引料金を設定しています。

- 料金 = U24 [24歳以下対象]: 公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下: 一律1,000円
- 購入方法 = 各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
※一部公演により発売開始日や発売方法が異なります。
- その他 = 本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

10/5 SAT

好評発売中

世田谷パブリックシアタープロデュース

『ジャンヌ』

—ノーベル賞作家が暴く、
聖女ジャンヌ・ダルクの真実—

- 作 = バーナード・ショー『聖女ジョウン』(原題)
- 翻訳 = 中川龍一 / 小田島雄志 ● 演出 = 鶴山 仁
- 出演 = 笹本玲奈 / 今井朋彦 / 伊礼彼方 / 村井國夫 他
- 日時 = 10月5日 [土] 14:00開演 ● 会場 = PLAT主ホール
- 料金 = [全席指定] S席6,500円
1Fバルコニー席5,500円 / A席4,000円

10/12 SAT — 13 SUN

とよはしアートフェスティバル

『大道芸 in とよはし』

PLATごとワープする、ルネッサンスな2日間!

- 出演 = 中国雑技芸術団 / FUNNY BONES
Street Circus / fraser hooper 他
- 日時 = 10月12日 [土]・13日 [日] ● 会場 = PLAT 等
- 料金 = 入場無料

PLATがサーカス小屋に大変身! パワーアップしたアーティストが、国内外からやってくる!



左:中国雑技芸術団 / 上:FUNNYBONES / 下:Street Circus

速報!

『第2回大道芸 in とよはし』 ボランティアスタッフ募集します。

ボランティアスタッフとして、事前準備や当日の運営サポート、パフォーマーの付き人など、今年もフェスティバルを手伝ってくださる仲間を募集します。「参加してみたい」という方も、「ボランティアって、どんなことをやるの?」など、まずは知りたい方も、事前の説明会にお気軽にご参加ください。

※申込方法等、詳細は追ってHPやチラシなどでお知らせいたします。

11/22 FRI

会員先行=9月16日 [月・祝] 一般発売=9月22日 [日]

寄席日和 ~ 風間杜夫の会 ~

銀ちゃん & ヤス! あの名コンビが復活!

平田 満がトークショーに出演決定!

- 日時 = 11月22日 [金] 18:30開演
- 会場 = PLAT主ホール ● 料金 = [全席指定] 一般3,600円

11/30 SAT

会員先行=8月25日 [日] 一般発売=9月1日 [日]

三浦章宏 & 清水和音 ブラームス ヴァイオリン・ソナタ全曲リサイタル

- 出演 = 三浦章宏 [ヴァイオリン] / 清水和音 [ピアノ]
- 日時 = 11月30日 [土] 14:00開演
- 会場 = ライフポートとよはし コンサートホール
- 料金 = [全席指定] S席3,000円 / A席2,000円
ユースチケット S席1,500円 / A席1,000円 ※枚数限定・24歳以下対象
東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター・三浦章宏、そして幅広い分野で活動し続け、2011年にデビュー 30周年を迎えたピアニスト・清水和音。ブラームスのヴァイオリン・ソナタ全3作品を彼らの磨き抜かれた感性で演奏します。

12/21 SAT

会員先行=9月29日 [日] 一般発売=10月6日 [日]

宮川彬良PRESENTS

『劇場へ行こう!』

- 音楽 = 宮川彬良 ● 演出 = 田尾下哲 ● 出演 = 公募合唱団
- 日時 = 12月21日 [土] 14:00開演
- 会場 = PLAT主ホール ● 料金 = [全席指定] 一般4,000円

グロトリアンを弾いてみよう

遙々ドイツからPLATへやってきたグロトリアンピアノの響きを体験できる機会を設けました。大切に扱ってくれる方ならお子様でもかまいません。グロトリアンピアノの響きを是非感じてください。

- 日時 = 9月8日 [日] ● 会場 = PLAT創造活動室A
- 参加料 = 1時間あたり1,000円 ● 対象 = ピアノ演奏ができる方。
- 募集人数 = 毎時00分から1時間単位で最大2時間まで。
- 申込方法 = 8月24日 [土] からプラットチケットセンター
電話のみ Tel: 0532(39)3090

※今回以降も随時開催してまいります。日程等は本誌や劇場HPなどでご案内いたします。

ホワイエ ON PAPER

平山素子
ダンスワークショップ
ショーイング
9月28日・29日

PLAT × 平山素子 ダンスの生まれるところ



ん。ですから今回は『作品』というより、実験を繰り返した結果を形にしたい。いわば道場ですね」と平山さん。またアートスペースの空間を生かし、「間近で行われているものをダイレクトに受け止められる特徴を大切にしたい」と語ります。「現代ダンスの特徴は、単に優れた技術を見るだけでなく、その裏側にある小さな未来（新しいルールのようなもの）を、出演者同士や観客とのコミュニケーションから探り合うことです」と平山さんが言うように、変幻自在のアートスペースだからこそ、劇場鑑賞型の公演では感じられないものがあるはずです。ここでしか表れない特別な「創造の原点」をぜひ、感じてください。



ダンスは誰のもの？

多くの方が、ダンスはわからないと言います。でもダンスはみんなのもの。みんなで持つべき貴重な芸術財産です。「私たち人間は言葉でのコミュニケーションは約2割で、大部分は表情やしぐさといった情報から探り合っているんですよ。ダンスにはコミュニケーションに必要な感覚を呼び覚ます大切なヒントがたくさんちりばめられています」と平山さん。「もちろん、劇場型のプロフェッショナルな公演には非現実という魅力があります。でも、その原点は、みんなが共有した小さなことにあることを忘れてはいけないと思うんです」。すべての始まりは身体を通してのコミュニケーション。今回のショーイングは、いわば、その原点を見直すものと言ってよいでしょう。ワークショップから観客が集うアートスペースへ。そこで何が起るのか、ともに目撃し、体験してください。

撮影：川澄 聡

チケット
発売中

● 公演情報 9月28[土]—29日[日]
PLAT アートスペース



ショーイングって!?

6月15日の平山素子「フランス印象派ダンス Trip Triptych」。サティ、ラヴェル、ドビュッシーの音楽に着想を得た美しく精緻で情熱的なダンスは、満席の客席から何度も絶え間ない拍手が送られました。

その創造の原点に迫るとも言えるプロジェクトが今、平山さんとPLATの間で進んでいます。それが、「平山素子ダンスワークショップ

ショーイング」。一昨年、昨年と平山さんを講師に行われたワークショップに、この夏、さらに15日間のワークショップを積み上げて生まれた作品を発表するものです。でも、ただの発表会とは違います。いわばワークショップのドキュメントでありトライアル公演です。「手間と時間をかけて煮込んだスープの質の高さは、誰にでもわかる」と、平山さん。「ワークショップでは、自分はずいぶん動きを選び、その動きはどう表すのかという問いを繰り返してきた。その成果を今度は観客の皆さんにも投げかけ、答えあわせを楽しみたいと思っています」。

どんな作品になる？

「ほとんどのメンバーはこれまで身体の内側をじっくり観察し、動きを考え、創り出し、それを表出させるという経験をしてきていま



ワークショップは、ダンサーたちの表現道場。

芸術文化アドバイザー

第1回

平田 満のちよこつとエッセイ



「まれびと」

私のはじめての観劇体験は、地元の神社の境内に巡業に来た旅芝居、いわゆる大衆演劇でした。むしろやゴザなどを敷いたにわか劇場の棧敷で、時代物や舞踊を幼い私は目を丸くして見ていたものです。怖いもの見たさでのぞいた楽屋で男の人たちが厚化粧する様子に啞然とし、同じ年頃の子役が喝采を浴びておひねりをもらう艶姿に強い印象を受けました。

思えば私たち普通の人びとからすれば、彼らはまさに客人（まれびと）でした。知らない土

地からやってきて非日常の世界を見せてくれました。そして自分たちとは違う世界、異なる人生があることを教えてくれました。

プラットが開館して、落語、ダンス、シェークスピア、歌舞伎と、いろいろな演目が上演され、活気ある柿落しになりました。これからは様々なアーティスト、まれびとがやってきて、多様な舞台表現を見せてくれるはずです。時には皆さんも異なる人生、世界に触れて何かを感じたり考えたりしてみませんか？

 <p>株式会社 三寶堂印刷所 電話 五三六一六四一 ファックス 五三一六一四一</p>	<p>本の豊川堂 アカルミミア 店 五四一六六八八番 店 五五二八八〇〇番 店 五四一六三五一番</p>	<p>株式会社 竹尾 誠 株式会社 竹尾建築設計事務所 豊橋市平川町91-2 電話0532-40003 豊橋事務所 / 豊橋市平川町91-2 電話0532-421331 (代) Fax:0532-62-1332 浜松事務所 / 浜松市東区流通元町13 電話053-40007 Phone:053-422-3628 (代)</p> <p>YOSHINO ASSOCIATES architects & engineers http://www.440a.co.jp</p>	<p>伊藤藤文二 医院 豊橋市小池町字原下三五 電話四五二八三番(代)</p> <p>外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科 伊藤藤文二 医院</p>	<p>大島整形外科クリニック 豊橋市上伝馬町十六 電話 五五八六番</p> <p>東田町井原三九の七(市電赤岩口駅西側) 電話 六二一五一一番(代)</p>	<p>医療法人 赤岩病院 電話 六二二〇五番</p> <p>医療法人 赤岩病院 電話 六二二〇五番</p>	<p>YMバレエカンパニー 電話 六二二〇五番</p> <p>電話 六二二〇五番</p>	<p>伊魚有限公司 電話 52-5256</p> <p>精文館書店 本と文具なら TEL.54-2345</p>
---	---	---	--	---	--	---	--

竹内産婦人科

産婦人科
婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町 23
豊橋 竹内産婦人科 | 検索 Q

大正冷蔵
水各種販売 / 冷蔵倉庫業

本社 豊橋市湊町 117
TEL: 0532-52-1161
FAX: 0532-52-8015

ホンポコ
なつかしの味

山本製粉 株式会社

KAIHO 写楽集団・クラブ

KOTARO (リーダー) DAIGOLAW (法務)
NORI-G (財務) NOBU (編集)
GUCCHI (総務) MATSUO (宣伝)
TAKEDA (広報)

photo

株式会社 谷山建築設計事務所
豊橋市西羽田町 一八三
http://tanishima-archi.com

豊橋調理製菓専門学校
調理と製菓のおいしい資格。
豊橋市八町通一丁目二十二番
TEL 五三二八〇八九

広告募集中

ONOCOM
株式会社オノコム

つくだ煮
創業明治七年
三河の滋味

SHONOYA
塩之谷整形外科
院長 塩之谷 昌
副院長 塩之谷 香
豊橋市塩田町開設54
☎(0532) 25-2115 (代)

共和印刷株式会社
豊橋市小池町30番地の1
TEL 46-13281
FAX 46-13285

高誠堂
伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
豊橋市呉服町四拾四番地
電話 五二一五五一四

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮膚科
院長 大岩 俊久
電話 五五一二一〇〇五

なりの花でん
創業文政年間
美飯 日楽 ぎく宗
豊橋市新本町40
電話52-5473番

豊橋名産 弁あくわ
天之美禄
ココラフロント ホテルアーケイリッシュイフ

プラットフレンズ募集中 [入会金・年会費無料]

お得な3つの特典

特典 1 公演情報をメールでご案内します。
特典 2 インターネットでチケット予約ができます。
特典 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。

登録方法

- WEBで登録 [穂の国とよはし芸術劇場HP] <http://toyohashi-at.jp>
- 携帯で登録 <https://piagettii.e-get.jp/online-ticket/de/>
- 窓口で登録
穂の国とよはし芸術劇場 Tickets & Information カウンター




チケット購入案内

◆プラットチケットセンター [会員先行・一般発売]
Web=<http://toyohashi-at.jp> ※プラットフレンズへの登録が必要です。
Tel=0532(39)3090
受付時間 [Tel: 窓口] 10:00~19:00 (休館日をのぞく)
窓口=穂の国とよはし芸術劇場 1F
Tickets & Information カウンター

◆その他 [一般発売・公演によって販売所は異なります]
チケットぴあ / カルミア2Fサービスセンター
ほの国百貨店 6F プレイガイド など

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
Tel=0532(39)8810 [代表] <http://toyohashi-at.jp>
開館時間=9:00~22:00 休館日: 第三月曜、祝日の場合は翌日。年末・年始。
豊橋駅 (JR東海道新幹線・東海道本線・名古屋鉄道)、新豊橋駅 (豊橋鉄道渥美線) 直結。豊橋駅南口から徒歩3分。 ※駐車場はありません。公共交通機関、お近くの公共駐車場等をご利用下さい。

PLAT CALENDAR

9 SEPTEMBER

- 1 SUN 桜丘高等学校音楽科創設50周年記念『夕鶴』 PLAT主ホール
第40回一穂会書展 豊橋市美術館
茶道クラブ月例茶会[表千家清和会] 三の丸会館
- 2 MON 宗徧吉田流和有茶会 臨濟寺
- 6 FRI 裏千家六日会月釜 三の丸会館
- 7 SAT 二兎社『兄帰る』 PLAT主ホール
CBDC Party 2013 PLATアートスペース
- 8 SUN TOYOHASHI ROCK FILE レコ発!!!
～ロックってええじゃないか～ PLAT主ホール
第35回不朽流吟詠コンクール大会 PLATアートスペース
- 11 WED—13 FRI 豊橋演劇鑑賞会第238回例会
木山事務所ミュージカル『はだしのゲン』 PLAT主ホール
- 14 SAT—16 MON KAAT神奈川芸術劇場プロデュース 親子のためのファミリー・ミュージカル
『ピノキオ～または白雪姫の悲劇～』 PLATアートスペース
- 14 SAT 東日新聞ピンクリボンセミナー2013『もっと乳がんを知ろう』 PLAT主ホール
- 15 SUN 裏千家静和会月釜 三の丸会館
- 20 FRI 第19回「文化の祭典」吟詠剣詩舞有志の集い PLATアートスペース
- 20 FRI—23 MON 第10回都市型アートイベントsebone PLAT研修室 他
- 21 SAT—22 SUN 劇団「第五会議室」第4回公演『バーボットの破片2013』 PLAT主ホール
- 21 SAT 第6回ポケットオペラ公演
東日本大震災チャリティーコンサート PLATアートスペース
- 23 MON 第47回東三民踊まつり PLAT主ホール
第41回全国アマチュアオーケストラフェスティバル豊橋大会 ライフポートとよはし
- 28 SAT 豊橋文化祭オープニング式典 PLAT主ホール
田辺菜美子・李宗潤ジョイントリサイタル 豊橋市民文化会館
- 28 SAT—29 SUN 平山素子ダンスワークショップショーイング PLATアートスペース
- 29 SUN (公財)日本民謡協会民謡民舞愛知・岐阜県連合大会 PLAT主ホール
箏の調べ ～紅葉月のおさらい会～ 三の丸会館

10 OCTOBER

- 2 WED 宗徧吉田流和有茶会 臨濟寺
- 5 SAT 世田谷パブリックシアタープロデュース『ジャンヌ』 PLAT主ホール
史跡シンポジウム 瓜郷遺跡発掘60年 PLATアートスペース
- 6 SUN 第38回ペガサス会ピアノ演奏会 PLATアートスペース
- 8 TUE 劇団東演 朗読劇「月光の夏」 PLATアートスペース
- 12 SAT 豊橋邦楽大会 民謡・新舞踊の部 豊橋市民文化会館
- 12 SAT—13 SUN とよはしアートフェスティバル『第2回大道芸 in とよはし』 PLAT等
- 13 SUN 豊橋邦楽大会 民謡・三味線・尺八・太鼓・大正琴の部 豊橋市民文化会館
- 14 MON 特選落語会 林家たい平独演会 PLAT主ホール
- 19 SAT—20 SUN 豊橋秋の市民茶会 豊橋市民文化会館
- 20 SUN 神保 彰ワンマンオーケストラ in 豊橋まつり
～東日本大震災チャリティーライブ～ PLAT主ホール
- 25 FRI—26 SAT LRT都市サミット豊橋2013 PLAT主ホール
- 27 SUN 第23回吉田文楽保存会定期公演 PLATアートスペース
第44回合唱祭 ライフポートとよはし
第10回津軽三味線雅會発表会 豊橋市公会堂

[表紙写真] アートスペースこけら落とし公演『父よ!』(6月12～16日)のカーテンコール。劇場にとっても至福の瞬間。

企画・発行＝公益財団法人豊橋文化振興財団
編集＝森 絹江／デザイン＝松吉太郎デザイン事務所
写真[表紙]＝谷古宇正彦
平成25年8月 発行3号 [隔月発行]

穂の国とよはし芸術劇場

TOYOHASHI ARTS THEATRE
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
Tel 0532(39)8810[代表] <http://toyohashi-at.jp>

